



～戮力協心～ NO.19

2024年1月29日
発行責任者 池尻 和寛
編集責任者 情 宣 部

2024春季生活闘争【春闘】が事実上スタート!!

労働組合と経済界の代表が賃上げについての方針などを説明し合う「労使フォーラム」が1月24日開催され、2024春闘が事実上スタートを切った。ただ、本来賃上げを抑えたい立場である企業側が、労組側の掲げる賃上げ目標に前向きな評価を示すという、異例の幕開けとなった。

労組の中央組織「連合」の芳野会長は、今春闘を「経済も賃金も物価も安定的に上昇する経済社会へのステージ転換をはかる正念場」としている。昨年は約30年ぶりの高い賃上げ率となったものの、物価上昇分には届いておらず、実質賃金はマイナスの状態が続いている。昨年の流れを維持しつつ、継続的な賃上げ、物価上昇に負けない賃上げとすべく、今年の春闘では「3%以上のベースアップ、定期昇給分込みで5%以上」を要求として掲げている。



「労使フォーラム」開催



経団連の十倉会長は中国出張のためビデオメッセージを寄せた。構造的な賃上げの実現にむけ「動き出した歯車を今年以降も加速できるかに、日本経済の未来がかかっている」と述べ、昨年を上回る賃上げに意欲を示し、会員企業に前向きな対応を呼びかけた。また、昨年の高い賃上げは大企業中心であり、中小企業への賃上げ波及が欠かせないとの認識を労使で共有した。

止まらぬ物価高騰で生活は苦しい！さらに実質賃金は下がり続けている！

2023年の労働者の平均賃金は「対前年+2.1%」（厚生労働省調べ）で、22年ぶりの高い伸び率となった。しかし、2023年平均の消費者物価指数は「3.1%の上昇」となり、賃上げ幅を超えた。JR総連組合員の平均賃金1%は2,873円/月（JR総連賃金実態調査より）のため、単純計算で約34,000円分の賃金が目減りしたと言える。世界情勢悪化に伴う原油高・原材料費高騰に加え、今後人件費の価格転嫁が進むことにより、今後も物価上昇は続くことが予想され、私たちの生活はより一層苦しくなることが見込まれる。

2024JR総連春闘もスタート!!

物流の2024年問題やカーボンニュートラルへの対応から鉄道貨物輸送の重要性がこれまで以上に再認識され、JR貨物の社会的使命はより一層重要となっている。そうした中、職場の最先頭で働く青年部員は、安全・安定輸送と収入確保にむけ、激甚化する自然災害や輸送障害への対応なども含め労働力の価値は高まっている!!

JR貨物労組は、1月27日に第36回定期中央委員会を開催し、『2024JR総連春闘』を、JR総連統一要求額である「12,000円」を確認してきた。単なる総連統一要求ではなく、『貨物労組としての要求額に高め』、「官製春闘」ではなく、労働者(労働組合)の団結によって賃上げを勝ち取ろうではないか!!



全青年部員の団結力を示し、2024JR総連春闘を闘い抜こう!!